2025年度　自己評価報告書・学校関係者評価報告書

2026年 3月　日
小石川白山教会附属愛星幼稚園

本園の教育目標
1. キリストの愛に基づく教育
一人一人の子供を神様から与えられたかけがえのない存在として受け止め、共に見、聞き、考えることを通して生きる喜びを広げることを教育の中心とする。
2. 自由遊びを中心とした教育
のびのびとした生活の中で子供の自発的な行動を教師が助け、その中で豊かな感性を育てる。
3. 個性を尊重した教育
一人一人の子供の発達段階の違いを受け入れ、それぞれの成長を助ける。また友達を思いやる温かい心を育てるよう努力する。

本年度の年間テーマ「みつける」
1. 自分を見つける。
2. 環境への気づきを育む。

自己評価　　評価（A…十分に成果があった　B…成果があった　C…成果がなかった）

評価項目ごとの評価

1. キリストの愛に基づく教育

評価	理由
A	子ども一人ひとりを神さまから与えられたかけがえのない存在として受け止め、その成長の歩みに丁寧に寄り添った。表面的な行動や姿の背景にある思いや育ちの過程に目を向け、どのような姿も肯定的に受け止める関わりをした。 その結果、子どもたちは安心して自分の気持ちや考えを言葉や態度で表し、主体的に生活や遊びに向かうようになった。また、友達を思いやり、互いの違いを認め合う優しさが育った。

2. 自由遊びを中心とした教育

評価	理由
A	子ども一人ひとりの興味や感情の揺れ動きを丁寧に捉えることを意識して、自由遊びの中で、一人一人に合った声掛けや対応を行なった。その結果、子どもたちは安心して自分の思いや興味を表現し、主体的に遊びを選びながら、室内外を行き来してのびのびと過ごすようになった。 また、保育者が子どもと同じ目線に立ち、共に遊ぶ関わりを大切にしたことで、子どもたちは遊びを広げ深めた。 さらに、子どもたちの声に耳を傾け、実現に向けた環境構成や援助を行った中で、子どもたちは自らアイデアを出し、試し、工夫しながら遊ぶようになり、主体性が育った。

3. 個性を尊重した教育

評価	理由
A	一人ひとりの発達段階や個性の違いを受け止め、それぞれのペースに寄り添う保育を行なった。カリキュラムの中でも、無理に活動を進めるのではなく、その時々の子どもたちの心情を丁寧に汲み取り、安心して園生活を送れるよう配慮した。 その結果、子どもたちは自分の思いや気持ちを受け止めてもらえているという安心感の中で、落ち着いて意欲的に生活や活動に向かうようになった。 また、子ども同士の関わりの中で見られる思いやりや優しさを保育者が見逃さずにその場で伝えたことで、自分とは違う他者の存在に気付き喜ぶ包容力が育った。

総合的評価

評価	理由
A	2025年度は「みつける」を年間テーマとし、日々の保育の中で子ども一人ひとりが自分自身や周囲の環境に気づく経験を重ねるよう努めた。子どもの思いやつぶやきに丁寧に耳を傾けて受け止め、また、日常の遊びや生活の中で気づきを深められる環境づくりを行った。 その結果、子どもたちは自分の「好き」「やってみたい」「できた」という思いに気づき、自分らしさを少しずつ見つけながら、安心して自己表現するようになった。また、友達との関わりや保育者との対話を通して、自分の気持ちと向き合い、相手の思いに気づくようになった。

	さらに、季節の変化や自然、身近な環境に目を向ける機会を大切にしたことで、子どもたちは遊びや生活の中で「気づく」「感じる」「考える」経験を重ね、環境に対する興味や関心を広げた。身の回りの環境を自分なりに捉え、工夫しながら関わろうとする意欲が育った。

学校関係者評価

教職員による自己評価は妥当である。先生方が子どもの行動をまず受け取ってくれる中で、子どもが主体的に取り組む力が成長していった。自由保育を謳っている園は多いが、本園ほど本当に自由に遊べる園は少ないようである。広い園庭でどろんこになって遊び、目を輝かせて好きなことに集中して遊んでいる。その中でひとつのことに集中する力と自信が育っている。自由遊びの中でも、先生方が場面に合った助け・ひとりひとりに合わせた声掛けを行なってくれている。子どもの目線に立って子どもを見ている。遊びの中で起こる子ども同士のささいなトラブルや気持ちのすれ違いにも先生方が素早く気付き、その場で寄り添って、上手に交通整理をしてくれるため、安心して任せることができる。そして、神様が見ているから正しいことをしようという思い、友達を思いやる気持ち、悪かったことを自分から謝る態度などが自然に育っており、親として嬉しく思う。素晴らしい保育を行なっている。